

## 原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2019 月 12 月」

### 2019年

- 12月2日 政府が福島第一原発の廃炉・汚染水対策チームの会合で、廃炉に向けた工程表「中長期ロードマップ」の改定案を示し、溶融核燃料(デブリ)の取り出しを、2号機から2021年中に始める方針を正式に明記した。2031年までに1~6号機全基で、使用済み核燃料プールに残る燃料の搬出完了を目指すことも盛り込んだ。
- 12月2日 登米市の熊谷盛広市長が、女川原発から30キロ圏内の緊急防護措置区域に入る地区の住民を対象に市が策定した事故時の避難計画について、「風向きによっては50キロも100キロも放射能が飛んでいくことは当然、ありえる」と述べ、実効性が不十分との認識を示した。
- 12月2日 東北電力が、女川原発2号機が再稼働に必要な審査に事実上合格してからは初めて、地元の住民に説明する戸別訪問を始めた。
- 12月3日 午前7時54分ごろ、西表島付近を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。沖縄県竹富町で震度3。
- 12月3日 午前8時25分ごろ、岩手県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。青森県五戸町、南部町、階上町、岩手県軽米町、沖縄県竹富町で震度3。
- 12月3日 午前10時18分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。栃木県栃木市、佐野市、下野市、群馬県桐生市、伊勢崎市、太田市、千代田町、大泉町で震度4、関東広域で震度3。
- 12月3日 東京電力が、福島第一原発の1、2号機共用排気筒の解体作業で、作業員が高さ110メートルの頂上付近に上がって「人力」で筒を切断する作業を始めた。
- 12月3日 和歌山県白浜町が、原子力発電所から出る放射性廃棄物の受け入れを拒否する条例を制定する方針。町議会12月定例会に条例案を提出する。議会で可決されれば、町内での原子力関連施設の立地は事実上、不可能になる。
- 12月3日 四国電力が、南海トラフ地震発生の可能性が高まった際に防災対応を促すため気象庁が発表する「南海トラフ地震臨時情報」の発表後も伊方原発の運転を原則継続する。複数ある臨時情報のうち、住民の事前避難など最

も社会の防災対応の規模が大きくなる臨時情報(巨大地震警戒)の場合も運転を続ける。

12月4日 原子力規制委員会の更田豊志委員長が、女川原発2号機を再稼働審査で正式合格とする判断について、一般からの意見公募を行い、経済産業相への意見照会も経て、正式合格の判断をするため、「(来年)2月半ば以降ではないか」との見解を示した。

12月4日 福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表で、アフガニスタンで長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さんが、東部ナンガルハル州の州都ジャララーバードにおいて、車で移動中に何者かに銃撃を受け、逝去されました。

12月4日 東京電力が、福島第一原発1、2号機の共用排気筒を上部から解体する作業で、人による手作業での排気筒の切断を終えた。

12月4日 午前10時38分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。茨城県日立市、土浦市、常総市、常陸太田市、笠間市、城里町で震度4、福島県、関東広域で震度3。

12月4日 13時27分ごろ、栃木県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。栃木県那須塩原市で震度3。

12月4日 18時13分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。茨城県土浦市で震度3。

12月4日 19時35分ごろ、栃木県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。栃木県日光市、那須塩原市で震度4、福島県、関東広域で震度3。

12月5日 東京電力が、福島第一原発の汚染水対策で、3号機タービン建屋海側にある地下道をふさぐ作業中、モルタルが建屋地下に流れ込んだと発表した。東電は原子炉建屋以外の建屋地下に残る汚染水を2020年末までにくみ上げ、移送する目標を掲げているが、遅れが出る可能性がある。原因や流入量については調査中としている。

12月5日 東京五輪の聖火リレーのスタート地点である福島県のサッカー施設「Jヴィレッジ」周辺の土壌が、福島事故以前より1775倍高い放射線に汚染されていた。この事実を把握した日本政府は、急いで当該場所の除染作業を行った。

12月5日 午前8時半ごろ、福島第一原子力発電所3号機の原子炉建屋の壁に、隣の建屋の調査のために東京電力が飛ばしていたドローンが接触し破損する

トラブル。けがをした人や建屋の損傷はなく、周辺の放射線量などにも変化はない。

- 12月5日 2017年7月から廃炉作業が進められている玄海原発1号機の廃炉作業の様子が、初めて公開された。廃炉作業が完了するのは、30年以上先の予定。
- 12月5日 20時10分、気象庁は小笠原諸島の西之島に発表している噴火警報を切り替え、「火口周辺危険」から「入山危険」に引き上げた。気象衛星による観測では噴火が発生している可能性があるとのこと。火口周辺警報(入山危険)が発表されるのは約1年1か月ぶり。
- 12月5日 22時35分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。福島県矢祭町、茨城県日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、大子町で震度3。
- 12月5日 22時35分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。福島県矢祭町、茨城県日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、大子町で震度3。
- 12月5日 23時54分ごろ、大隅半島東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。鹿児島県錦江町で震度3。
- 12月6日 韓国独自開発の加圧水型軽水炉「APR1400」を初採用した新古里原発3、4号機の建設事業が、着工から12年余りを経て最終的に完了した。
- 12月7日 12時34分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。福島県田村市、浪江町で震度3。
- 12月7日 経済産業省資源エネルギー庁と東京電力が、事故を起こした福島第一原発が立地する大熊町や双葉町から周辺地域に避難している住民ら約30人を招き、現地視察会と座談会を開いた。「本当に最長40年で廃炉は終わるのか」と疑問の声も相次いだ。
- 12月8日 東京電力が、福島第一原発で、原子炉格納容器の水素爆発を防ぐための窒素を生成する装置1台が、午前11時半に停止したと発表した。午後0時56分に、待機中の1台を起動してカバーした。別の装置は正常に作動し、格納容器内の水素濃度や温度に異常はなかった。
- 12月9日 「核のごみ」の処分方法を研究する幌延深地層研究センターについて、幌延町は、「最終処分場としない」とする協定を守ることが確認されたとして、2028年度まで延長する計画案の受け入れを表明した。
- 12月10日 午後4時15分ごろ、玄海原発敷地内にある変電所から、煙が出ていると119番があり、消防が駆けつけた。約20分後自然に鎮火した。運転中の玄海3、4号機に影響はなく、作業員にけがはなかった。

- 12月11日 原子力規制委員会が、大飯原子力発電所の1号機と2号機について、およそ30年をかけて廃炉にすることなどをまとめた計画を認可した。出力が100万キロワット以上の原発の廃炉計画の認可は初めて。
- 12月11日 18時39分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.2と推定。宮城県石巻市、名取市、登米市、栗原市、東松島市、涌谷町、美里町、福島県いわき市、伊達市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町で震度3。
- 12月12日 午前1時09分ごろ、宗谷地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。北海道豊富町で震度5弱、北海道幌延町で震度4、北海道天塩町で震度3。
- 12月12日 伊方原発3号機は定期検査のため26日から3か月の予定で運転を停止する。今回は検査にあわせ原子炉制御装置を取り替えるため、定期検査の期間は通常より2か月ほど長くなる見込み。またMOX燃料16体を国内で初めて原子炉から取り出し、施設内のプールで保管する予定。国内に使用済みMOX燃料の再処理施設がないため、施設内で保管するしかない。
- 12月12日 東海第2原発事故に備え、周辺自治体の住民に事前配布されている安定ヨウ素剤を巡り、有効期限が切れた薬の回収が進まず、茨城県とひたちなか市は早めに交換するよう呼び掛けている。新剤の配布率は5キロ圏内の東海、日立、那珂の3市村で44%、ひたちなか市で13%。
- 12月13日 笠間市議会の12月定例会本会議で、東海村の東海第二原発の再稼働を巡り、原発から三十キロ圏内に入る南友部地区の区長会が反対を求めて提出した請願を賛成少数で不採択にした。
- 12月14日 午前3時24分ごろ、伊豆大島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。千葉県館山市、南房総市、神奈川県横浜磯子区、静岡県伊豆市で震度3。
- 12月16日 午前4時14分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。千葉県長南町で震度3。
- 12月16日 午前6時52分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。北海道厚真町、安平町、むかわ町、平取町で震度3。
- 12月16日 東京電力が、福島第一原発1、2号機の共用排気筒を上部から解体する作業で、本年度中と見込んでいた完了時期を5月上旬に延期するとした。クレーンでつり上げて遠隔操作する切断装置でトラブルが相次ぎ、作業の中断を繰り返していた。
- 12月16日 中国電力が、山口県上関町に計画する上関原発の建設に伴う海上ボーリング調査を、当初予定の来年1月末までに完了することを断念した。予定

地対岸の祝島から反対派漁師が連日抗議に繰り出し調査を始められないため。再開は来年度以降とするが、国内唯一の新規立地計画はさらに不透明さを増している。

- 12月17日 日本原子力発電が運営する東海第二原発で、再稼働のための安全対策工事にゼネコン側が2500億円を超える見積額を提示し、これは原電の当初の予定額を700億円以上、上回っている。
- 12月17日 福島第一原発事故で平穏に生活する権利を侵害されたとして、山形県に自主避難するなどした200世帯734人が国と東電に慰謝料など計80億7400万円の支払いを求めた訴訟の判決で、山形地裁の貝原信之裁判長は、国の賠償責任を認めず、東電に対し、原告5人に計44万円を支払うよう命じた。
- 12月17日 日本原子力研究開発機構が、茨城県東海村にある核燃料サイクル工学研究所のプルトニウム燃料第1開発室の設備で、放射性物質による汚染を確認したと発表した。作業員や周辺環境への影響はなかったという。
- 12月17日 福井県高浜町議会が、関西電力役員らの金品受領問題を巡る第三者委員会の調査に、関電が真摯に対応して全容解明を図るよう求める決議を全会一致で可決して、関電幹部を議会に呼び、同趣旨の要請書を手渡した。
- 12月18日 午前8時35分ごろ、沖縄本島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.0と推定。鹿児島県天城町、伊仙町、和泊町、知名町で震度3、鹿児島県瀬戸内町、与論町、沖縄県国頭村で震度3。
- 12月18日 12月10日の玄海原子力発電所の敷地内にある変電所で発生した火災について、九州電力は設備点検後の作業ミスが原因だったと発表した。
- 12月18日 和歌山県白浜町で、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物の受け入れを拒否する条例が制定された。受け入れを拒否する「安心・安全なまちづくり推進条例」には、放射性物質の持ち込みや貯蔵、処分施設の建設を認めないことが明記されている。
- 12月18日 20時54分ごろ、根室半島南東沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。北海道根室市で震度3。
- 12月18日 更田豊志原子力規制委員会委員長が、初めて取り出される見通しの四国電力伊方原発3号機の使用済みプルトニウム・ウラン混合酸化物燃料について、通常の使用済み燃料と同様にプールで十分に冷却した後、乾式貯蔵施設で保管すれば「かなりリスクは小さくなる」との認識を示し、乾式貯蔵を推奨した。
- 12月18日 福島第一原発事故による放射線被ばくへの不安によって精神的苦痛を受けたとして、福島市など避難指示区域外の県内6市町の住民52人が東



電に計約 9800 万円の損害賠償を求めた訴訟で、福島地裁が和解勧告を出した。原発事故を巡る集団訴訟での和解勧告は全国初。

- 12 月 19 日 午前 9 時 23 分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.2 と推定。茨城県ひたちなか市で震度 3。
- 12 月 19 日 15 時 21 分ごろ、青森県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.5 と推定。青森県階上町で震度 5 弱、青森県八戸市、三沢市。おいらせ町、三戸町、五戸町、南部町、岩手県久慈市、二戸市、軽米町、野田村、洋野町、一戸町で震度 4、北海道、東北の広域で震度 3。
- 12 月 19 日 台風 15 号で 2 次冷却塔が倒壊した日本原子力研究開発機構の原子炉「材料試験炉 (JMTR)」で、冷却塔を支える木材に腐食があり、強風に耐えられず、倒壊に至っていたことがわかった。
- 12 月 20 日 福島第一原発 1、2 号機の使用済み核燃料プールの燃料搬出で、政府と東電が、目標だった 2023 年度の作業開始を断念する方針を固めた。
- 12 月 20 日 福島第一原子力発電所の 1 号機でがれきの撤去で、放射性物質を含む粉じんが飛散するリスクを下げることを目的に、建屋全体を覆う高さが 65 メートルある大型カバーを設置することになった。
- 12 月 20 日 18 時 31 分ごろ、奄美大島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.3 と推定。鹿児島県奄美市で震度 3。
- 12 月 21 日 笠間市が、東海村の東海第二原発事故を想定した避難訓練を実施した。原発事故を想定した市の避難訓練は 3 回目。避難場所を理解していない人もいて、事故が発生した場合に懸念の声が上がった。
- 12 月 21 日 原発から出る高レベル放射性廃棄物最終処分について、原子力発電環境整備機構と資源エネルギー庁が、対話型の説明会を八戸市で開いた。
- 12 月 22 日 高浜原発 3、4 号機が来夏以降に停止。国が義務付けるテロ対策施設の設置工事が期限内に終了しないことが確実になった。
- 12 月 22 日 日本とフランスが共同開発する高速実証炉の計画が縮小するなか、高速炉の研究開発の来年度予算案は前年並みの 40 億円が計上。使用済み核燃料を再び発電に使う「核燃料サイクル」の実現を目指すとしている。廃炉になった高速増殖炉「もんじゅ」の後継機として日本とフランスが建設を計画していた高速実証炉「アストリッド」は、フランス側が大幅に縮小する方針を示して建設は見通せない状況。
- 12 月 22 日 14 時 24 分ごろ、渡島地方北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.0 と推定。北海道渡島森町、八雲町で震度 3。

- 12月22日 21時33分ごろ、岩手県内陸南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。岩手県奥州市、宮城県栗原市で震度3。
- 12月23日 福島第一原発のトリチウムなどを含む水の処分方法について、経済産業省の小委員会が、基準以下に薄めたうえで海に放出する案と蒸発させて大気中に放出する案を中心に議論を進めることを提言する素案を示した。更田豊志原子力規制委員会委員長も記者会見で、「海への放出も大気への放出も基準を守って行われた場合、環境や健康、農水産物などへの影響は考えられない」とする認識を改めて示した。
- 12月23日 九州電力が、定期検査中の川内原発2号機について、来年1月下旬にも営業運転を再開すると発表した。同原発をめぐっては、テロ対策施設の建設が遅れているため、1号機が20年3月から、2号機が同年5月から、それぞれ運転を停止する予定。
- 12月23日 東京電力が、福島第一原発3号機の原子炉建屋にある使用済み核燃料プールからの燃料取り出し作業を再開した。8月から設備検査のため作業を中断し、9月上旬に再開予定だったが機器の不具合が相次いで見つかり、再開が遅れていた。
- 12月23日 経済産業省が、原発から出る高レベル放射性廃棄物最終処分の候補地選定に関する自治体向け説明会を仙台市内で開き、選定の第1段階である文献調査の実施に向けた取り組みを強化する考えを示した。
- 12月24日 北海道電力が、泊原発の放射性廃棄物処理建屋から大気に放出している放射性廃棄物量を、1号機の試運転が始まった1988年10月から、半分程度に少なく国や道、周辺自治体に報告していたと発表した。泊原発全体の放出量でみると、過少報告分は定める目標値の数万～数百万分の1程度で、環境への影響はないと説明している。
- 12月24日 2022年までが使用期限となっている韓国の月城原発1号機が、永久に停止することになることが原子力安全委員会の表決で決まった。
- 12月24日 川内原子力発電所2号機が、24日原子炉を起動し、25日午前9時すぎに、核分裂反応が連続する「臨界」の状態になった。26日夜遅くには、発電と送電を再開する計画。
- 12月24日 23時37分ごろ、根室半島南東沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。北海道根室市で震度3。
- 12月24日 日本時間24日4時13分、カナダのブリティッシュコロンビア州ポート・ハーディー居住区から西に170キロの地点でマグニチュード5.7の地震が発生。続いて4時49分、マグニチュード6の地震が発生。
- 12月24日 グアテマラでマグニチュード5.8の地震が発生。

- 12月25日 午後3時58分頃、福島第一原発6号機使用済燃料プール冷却系ポンプ冷却系のろ過脱塩器の切り替え操作中に冷却ポンプが停止した。現場状況を確認中。停止時の温度は、16.4℃でした。制限温度は65℃であり、約10日間程度の裕度はある。
- 12月25日 原子力規制委員会が、高浜原発4号機の蒸気発生器の伝熱管損傷について、関電の原因分析と再発防止策を妥当と了承した。これにより関電は来年2月以降に原子炉を再起動する方針。
- 12月25日 日本時間04時03分、コロンビアでマグニチュード6.0の地震。震源の深さは10キロ。地震発生から16分後、マグニチュード5.8の地震が再度発生。
- 12月26日 未明、カムチャッカ半島の東部沿岸でマグニチュード4.9の地震が発生。この地震による犠牲者や建物の倒壊に関する情報は伝えられていない。
- 12月25日 原子力規制委員会が、九州電力玄海原発3、4号機に非常時、原子炉に必要な電力を供給する直流電源設備を設置することについて、設置変更申請を認可した。
- 12月25日 日本原子力研究開発機構が、原発の使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す東海再処理施設の廃止作業で、放射能が強い廃液を固める工程が約2年間中断する見通しを初めて示した。漏れ出すリスクを下げる最初の重要な作業だが、設備の故障が相次ぎ、12年半で終える計画は達成が困難となる。完了まで約70年、約1兆円の国費を投じる廃止作業は出だしからつまづいている。
- 12月26日 四国電力が、伊方原発3号機の定期検査を開始。使い終わったMOX燃料を来年1月に取り出す予定。本格的なプルサーマル発電でMOX燃料を取り出すのは全国初。
- 12月26日 原子力規制委員会が、福島第一原発3号機の立ち入り調査で撮影した詳細な映像を公開した。映像では、内部は原形をとどめておらず、大量のがれきが床全体を覆い、配管やダクトが折れて散乱していた。
- 12月26日 7月に廃炉が正式決定した福島第二原発を巡り、重要施設新設の際に地元の了解を得ることや、トラブル発生時の迅速な通報を定めた廃炉に関する「安全確保協定」を東京電力、地元2町と県の4者間で締結した。
- 12月26日 関西電力取締役会で、高浜原発3、4号機を2020年夏以降、順次停止する方針を報告。国が義務づけるテロ対策施設の設置工事が期限内に終了しないため。工事による停止は九州電力川内原発に続いて2例目。
- 12月26日 18時26分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。岩手県大船渡市、住田町で震度3。



- 12月26日 19時54分ごろ、鹿児島県薩摩地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。熊本県天草市で震度3。
- 12月26日 19時54分ごろ、鹿児島県薩摩地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。熊本県天草市で震度3。
- 12月27日 政府の廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議で、福島第一原子力発電所の廃止に向けた「中長期ロードマップ」の改訂を決めた。1・2号機の燃料取り出し時期を現行ロードマップの23年度めどから大きく後ずれさせた。1—6号機全機での取り出し完了は31年内とし、燃料デブリ取り出しを2号機から行うことも明記した。
- 12月30日 福島第一原発事故発生当初、汚染水から放射性物質を吸着させるために構内の二つの建屋の地下階に投入した鉱物「ゼオライト」が放射性物質を吸着し続け、表面線量は極めて高い値を示している。水中ドローンを使って調査した結果、プロセス主建屋で最大毎時3シーベルト、高温焼却炉建屋で最大毎時4シーベルトを計測した。ゼオライト土のうの処分方法が決まらず、見通しは立っていない。